

2. 1. 2 堤防の安全性

堤防は、過去に度重なる洪水の経験に基づいて拡築や補修が行われてきた歴史的構造物で、大淀川においても例外ではありません。このため、大淀川においても過去に整備された堤防は必ずしも工学的な設計に基づくものではなく、場所によっては不安定な構造となっているものがあります。

大淀川においては、平成8年に堤防や基礎地盤の土質、築堤年次、被災履歴等を総合的に評価した概略点検を実施しています。その結果によると点検区間131.30kmに対し、堤防の安全性がやや低いまたは低いと評価された区間が約2割あり、そのうちの約7割が大淀川本川の堤防区間となっています。

特に人口や資産の集積が著しい宮崎市街部においては、過去に漏水が多く発生しており、安全性が低いことが想定されます。

このように堤防及び地盤の構造が様々な不確実性を有し、浸透や侵食に対して脆弱な部分もあることから、堤防が完成している箇所においても安全性の点検を行い、機能の維持及び確保を図るため、必要に応じた堤防強化対策を実施していく必要があります。